

バードストライク死亡事例解剖について

4月26日、神奈川県自然環境保全センターで、秦野市立図書館における衝突個体（キジバト3、アオバト1）を、死因特定のため病理解剖しました。

参加したのは獣医師3名と獣医学生1名でした。

最初に丁寧に外部所見を調べ、頭部、頭部皮膚裂傷、下嘴骨折、口腔内出血が認められたものが二体ありました。

翼の部分、前肢体の骨折は外部からの触診では認められませんでした。

開腹の後、一体におびただしい体腔内及び臓器の出血がありました。

他の個体も主な病変は各臓器の出血でした。

所見を一覧にまとめると下図の通りでした。

	キジバト 1	キジバト 2	キジバト 3	アオバト
全長	27.0cm	28.5cm	28.0cm	28.7cm
翼長	50.5cm	51.0cm	52.0cm	58.0cm
外部所見	左眼球陥没 口腔内出血	下嘴骨折 口腔内出血	頭部、頸部皮膚裂傷 左眼球陥没 口腔内出血 右肩部腫脹、うっ血	口腔内出血
剖検結果	肝臓、喉頭口、肺、心臓、腎臓、尿管、後頭部脳内出血	後頭部皮下出血 脳内出血	頭蓋骨開放骨折 体腔内出血 胸部皮下出血	頸部皮下出血 右背部皮下出血 肝臓出血 肺出血 体腔内出血
特記事項	体腔内全体に出血		脳融解(死後変化)	

総評

全身の皮下や体腔内、各臓器の出血が多数確認されましたが、衝突や落下時の衝撃によるものと思われます。

頭蓋骨開放骨折は落下後捕食動物に噛まれたものと考えられます。

死後すぐに発見、調査できなかったのもので、確実な結果は出なかったのですが、死亡個体とこのような形で向き合う事により、衝突の悲惨さを目の当たりにさせられました。

一方で、アオバトの筋胃の粘膜層がキジバトと比べてとても厚いなど貴重な野生動物の内部を知ることができ、今後の救護活動に生かすため、再度行いたいという意見が出ました。

また、想像していたより、短時間で終わったという意見もあり、次回は衝突防止の啓発のため、簡易剥製作りを一緒に行う計画を練っています。皆さんの参加を募っています。